
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第37週
(9月13日～9月19日)

- * 2010年9月22日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2010年8月)の疾患及び感染症豆知識
「クオンティフェロン」も掲載しています。

平成22(2010)年9月24日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年37週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		34週	35週	36週	37週		37週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							2
	結核	49	68	41	45	2,865	276	18,059
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ		1			2	1	8
	細菌性赤痢	1	2	2	2	55	5	136
	腸管出血性大腸菌感染症	21	16	19	22	277	147	3,226
	腸チフス		1			7	1	24
	パラチフス			1	1	5		19
四類	E型肝炎					7	1	48
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	1		2	40	4	306
	エキノコックス症							7
	黄熱							
	オウム病							9
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							2
	狂犬病							
	コクシオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5		113
	デング熱	3	5	4	5	44	15	163
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	5	80
	日本脳炎							1
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1		2	2	23	3	54
野兔病								
ライム病					1		10	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1	1	3	
レジオネラ症			1	1	28	12	509	
レプトスピラ症					2		6	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		34週	35週	36週	37週	年累計	37週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	5	5	6	127	13	604
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1		1	1	30	4	144
	急性脳炎 *2					12		169
	クリプトスポリジウム症					3		15
	クロイツフェルト・ヤコブ病					10	2	117
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					14	1	88
	後天性免疫不全症候群	5	10	8	13	337	19	1,033
	ジアルジア症					9		54
	髄膜炎 菌性髄膜炎							6
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	1	3	5	119	11	428
	破傷風	1				3		73
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					11	2	76
	風しん		1			11	1	70
麻しん	1	1	1		61	3	382	
新型※	新型インフルエンザ *3	-	-	-	-		-	
2010/9/22集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 45件 肺結核28件、その他の結核15件、肺結核及びその他の結核2件で、推定感染地は国内42件、国外2件(ベトナム1件、不明1件)、国内及び国外(中国)1件、年齢は20歳代9件、30歳代5件、40歳代4件、50歳代3件、60歳代9件、70歳代5件、80歳代6件、90歳以上4件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 菌種はどちらもソネネ。推定感染地は国内1件、インド1件、感染経路はどちらもその他(不明)であった。

腸管出血性大腸菌感染症 22件 患者17件、無症状病原体保有者5件。血清型・毒素型はO157(VT1)2件、O157(VT2)3件、O157(VT1VT2)10件、O157(毒素型不明)1件、O26(VT1)2件、O103(VT1)2件、O121(VT2)1件、血清型不明(毒素型不明)1件で、そのうちO157(VT1VT2)2件は同居家族、O103(VT1)2件は同一施設の関係者である。年齢は10歳未満7件(うち5歳未満5件)、10歳代4件、20歳代6件、30歳代2件、40歳代1件、50歳代1件、80歳代1件で、そのうち10歳未満1件(血清型及び毒素型不明)はHUSの発症があった。

パラチフス 1件 患者で、推定感染地はネパール、推定感染経路は飲食物(フルーツ)による経口感染であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 2件 推定感染地はインド1件、ナミビア/ジンバブエ/南アメリカ1件、推定感染経路はどちらも飲食物による経口感染であった。

デング熱 5件 血清型は3型2件、不明3件。推定感染地はインド2件、フィリピン2件、タイ1件である。

マラリア 2件 三日熱マラリア1件、熱帯熱マラリア1件で、推定感染地はインド1件、ガーナ1件であった。

レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は60歳代。推定感染地は国内で、推定感染経路は水系(風呂)感染である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 6件 全て腸管アメーバ症。推定感染地は国内5件、国外1件で、推定感染経路は飲食物による経口感染3件、性的接触(異性間)1件、経口及び性的接触1件、その他(不明)1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)であった。

後天性免疫不全症候群 13件 無症候キャリア11件、AIDS1件、その他1件。無症候キャリアおよびその他の年齢は20歳代3件、30歳代5件、40歳代2件、50歳代2件、AIDS患者の年齢は40歳代1件である。推定感染地は国内11件、不明2件、推定感染経路は性的接触12件(同性間11件、異性間1件)、不明1件であった。

梅毒 5件 早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候2件。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間3件、異性間2件)であった。

※第36週該当分として、四類 デング熱 1件(デング出血熱)、五類 アメーバ赤痢 1件(腸管アメーバ症)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年37週

定点種別	対象疾患	2010年					報告医療機関数	定点医療機関数
		34週	35週	36週	37週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	7	9	6	11	0.08	145	150
	咽頭結膜熱	39	38	34	42	0.29		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	70	79	111	105	0.72		
	感染性胃腸炎	465	479	614	599	4.13		
	水痘	66	55	69	49	0.34		
	手足口病	176	174	148	146	1.01		
	伝染性紅斑	61	73	49	33	0.23		
	突発性発しん	95	117	125	112	0.77		
	百日咳	12	13	8	14	0.10		
	ヘルパンギーナ	123	100	88	91	0.63		
	流行性耳下腺炎	95	70	88	88	0.61		
	不明発しん症(注1)	19	19	18	16	0.11		
MCLS(川崎病)(注1)	1	3	2	0	0.00			
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	7	17	19	28	0.10	276	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	0	1	0	0.00	38	39
	流行性角結膜炎	20	21	31	39	1.03		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	0	0	0	0	0.00	23	25
	無菌性髄膜炎	1	2	1	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	4	6	1	5	0.22		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	1	0	0	0.00		

2010/9/22集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は微減した。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微減した。しかし過去5年平均の同時期と比較して多い。

(定点医療機関からのコメント)

台東保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザ:A型3例、同一施設
- ・流行性耳下腺炎:家族内発生

江東区保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザ:A型1名、韓国より帰国後発症
- ・インフルエンザ:B型2名、同じインターナショナルスクールに通学

渋谷区保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザ:A型1名

南多摩保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザ:B型1名

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年37週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	3	2		5		1		4		
～11か月	2	1		60	4	12		50		4
1歳	4	5	6	104	9	39	3	49	1	21
2歳	1	5	10	54	12	30	6	6		17
3歳	1	6	7	53	9	20	7	1		8
4歳		6	13	43	3	15	3	1		14
5歳		4	23	44	10	8	6	1		11
6歳		6	11	34	1	6	4			5
7歳		2	6	28		4	2			2
8歳			5	15	1	2	2		2	7
9歳		1	5	25		1				
10～14歳		2	11	46		4			3	1
15～19歳			3	16		1				
20～29歳		2	5	72		3			8	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	11	42	105	599	49	146	33	112	14	91
先週比	5	8	-6	-15	-20	-2	-16	-13	6	3

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		2				
～11か月		2				
1歳	7	3				
2歳	6	3		1		1
3歳	14	1		2		1
4歳	15	1		1		
5歳	9			2		2
6歳	12	1				
7歳	10	1		2		
8歳	4			3		1
9歳	2			3		1
10～14歳	2			3		1
15～19歳	2	1		1		1
20～29歳	5	1		2		5
30～39歳				2		12
40～49歳				2		2
50～59歳				4		7
60～69歳						1
70～79歳						4
80歳以上						
合計	88	16		28		39
先週比		-2	-2	9	-1	8

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年37週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	0

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年37週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	1		2	5		3		2		2
中央区			1	15		1				
みなと	2	5	4	39		10		5	2	2
新宿区			2	9	3	10		1	1	2
文京		4	1	1	3	1	2			1
台東			3	11	1	2		1		1
墨田区	1		6	11				7		1
江東区		4	2	68	3	9	2	4		1
品川区			4	27		1	1	4		2
目黒区				2		2	3	3		
大田区		6	4	45	4	11	2	7	3	8
世田谷	2		3	26	1	6	1	6		1
渋谷区			2	11		1	1	3		1
中野区		1	5	31	4	2		1		1
杉並			3	39	1	4	2	3		
池袋				6				1		
北区		3		7		3		3		2
荒川区	1	2	1	10	3	5	6	3		1
板橋区		2	2	18	1	1	1	5		
練馬区			4	15	3			7	1	1
足立		4	9	26	3	3	3	3		2
葛飾区		1	1	18	2	7		7		3
江戸川	2		12	16	1	11	2	5	3	11
八王子市	2		12	35	5	8		5	3	28
西多摩		1	5	14		2	1	1	1	
南多摩		2	1	9	2	6	3	4		7
町田			11	30	2	6		8		3
多摩立川				8	2	4		1		
多摩府中		1	1	12	2	12	1	6		4
多摩小平		6	2	35	2	14	2	6		5
島しょ			2		1	1				1

東京都合計	11	42	105	599	49	146	33	112	14	91
-------	----	----	-----	-----	----	-----	----	-----	----	----

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年37週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区				1		2
みなと	14					
新宿区		2		3		
文京	2					
台東	3			4		
墨田区	1					
江東区	2			3		2
品川区	3					1
目黒区						
大田区	2					5
世田谷	1	1		5		1
渋谷区				1		
中野区						1
杉並						
池袋	1					
北区	2					1
荒川区	3	2				4
板橋区	3					3
練馬区	5	2				
足立		1				
葛飾区	4			2		
江戸川						3
八王子市	3	3				3
西多摩	2	1				
南多摩	3			1		
町田	7	2		5		
多摩立川	6					
多摩府中	1	2				4
多摩小平	10			3		9
島しょ	10					

東京都合計	88	16	-	28	-	39
-------	----	----	---	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	0
-------	---	---

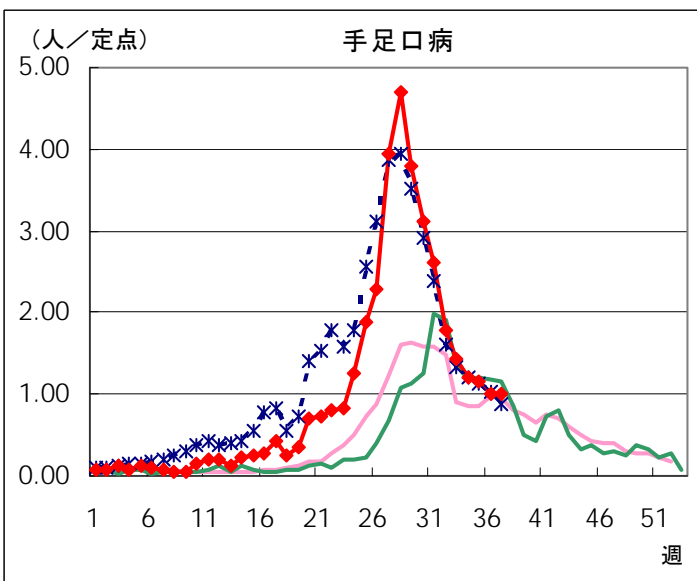
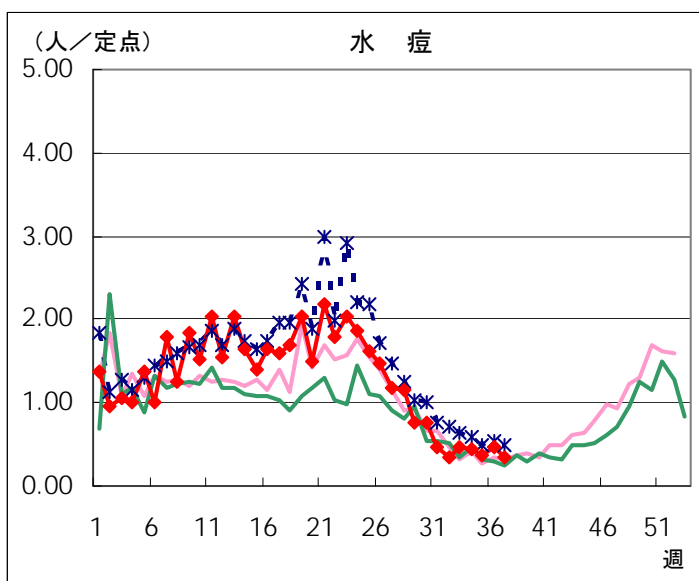
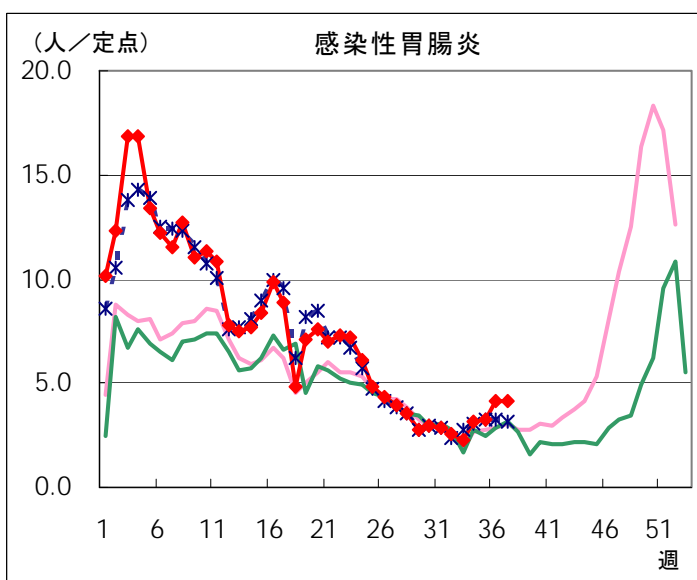
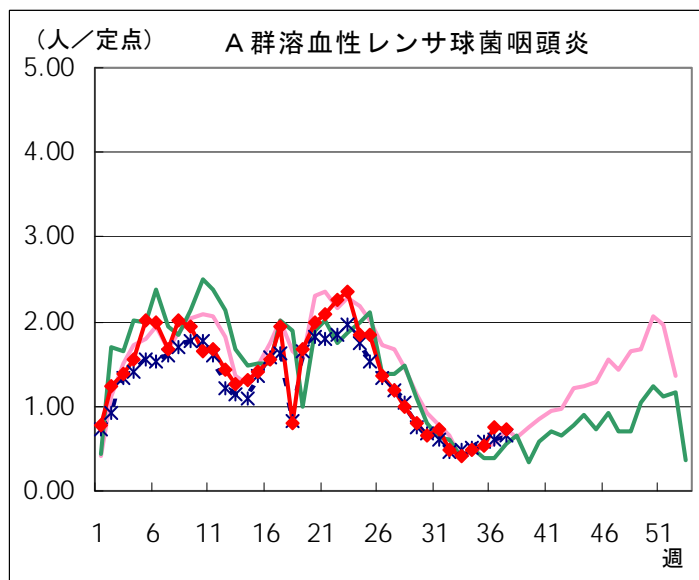
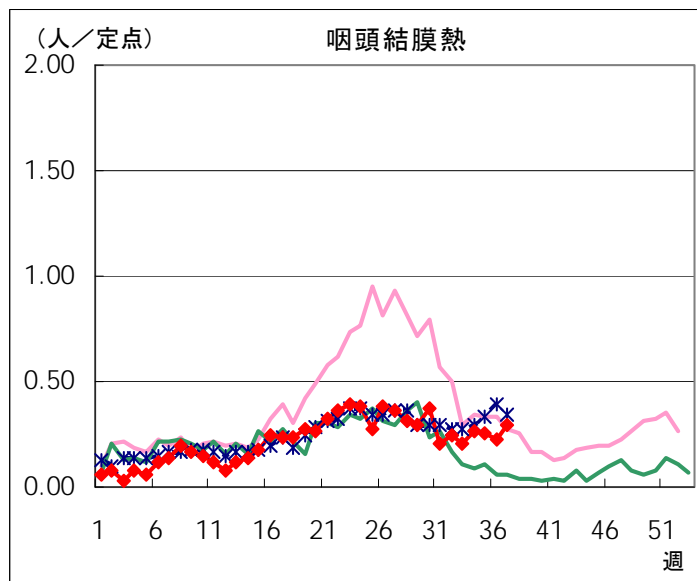
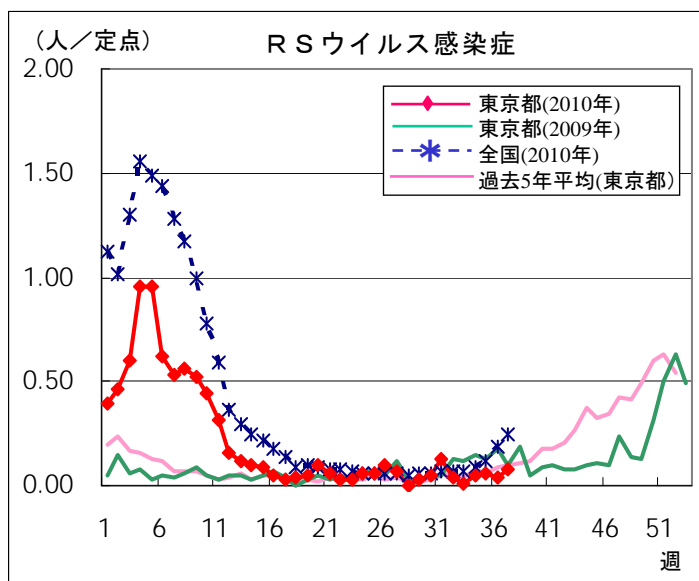
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年37週

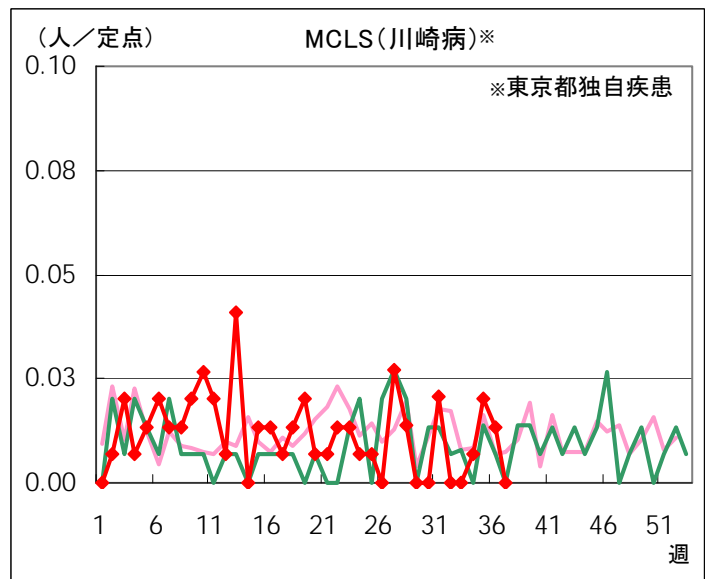
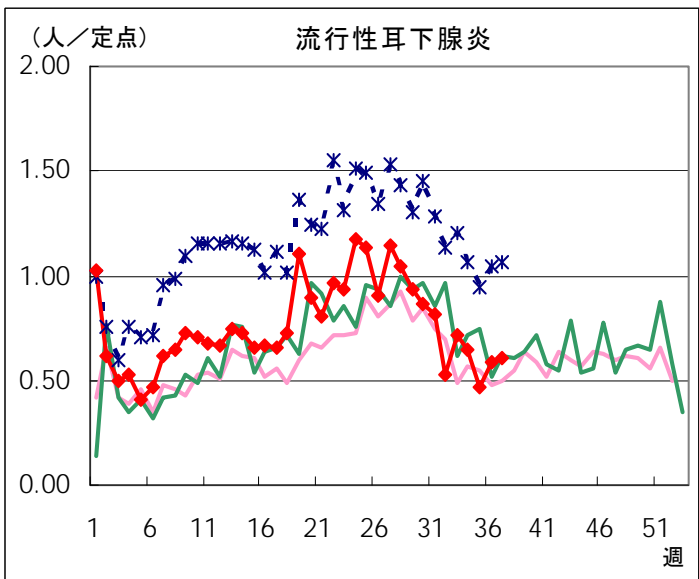
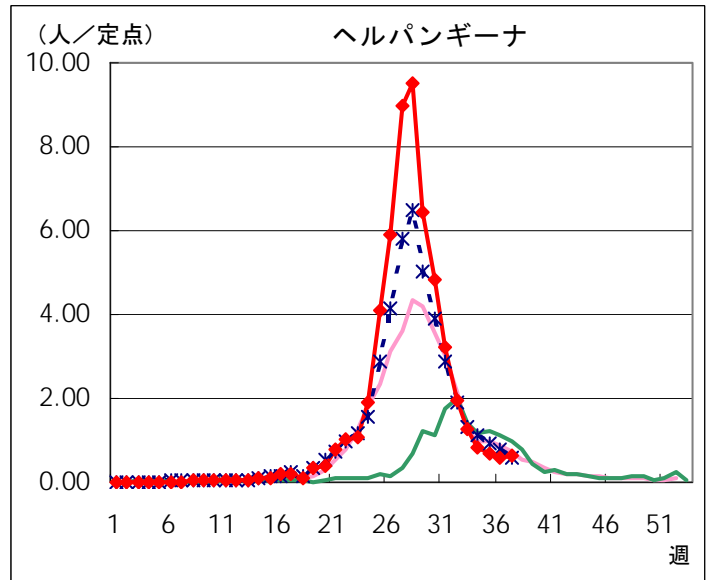
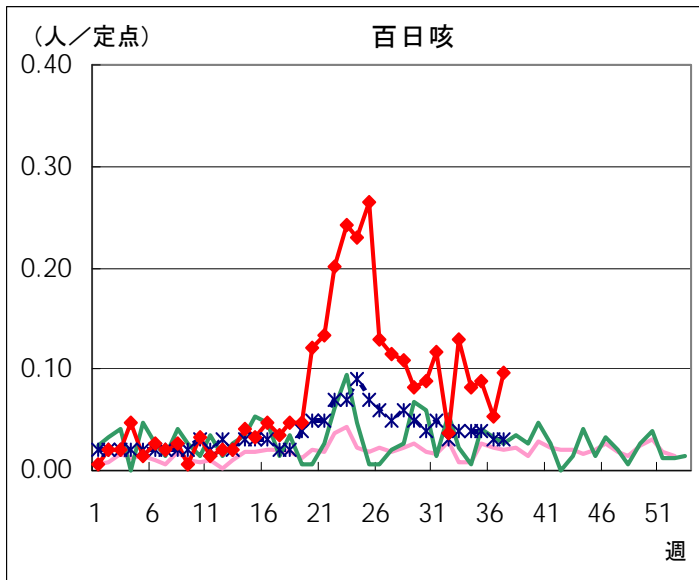
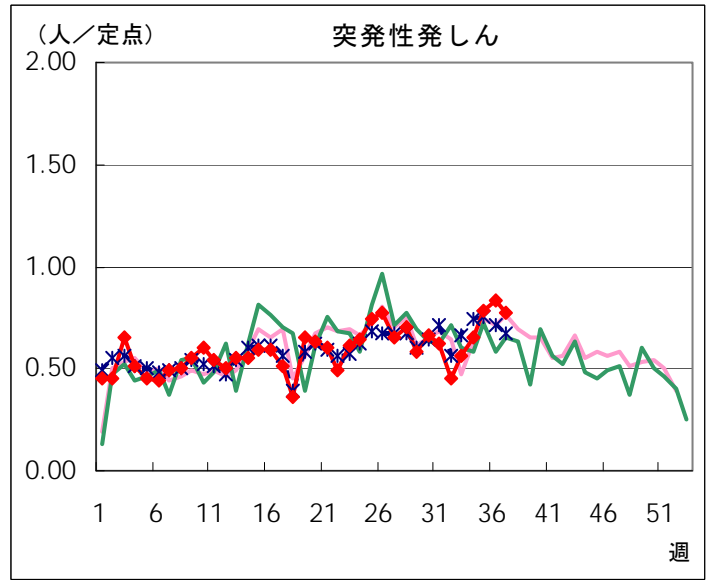
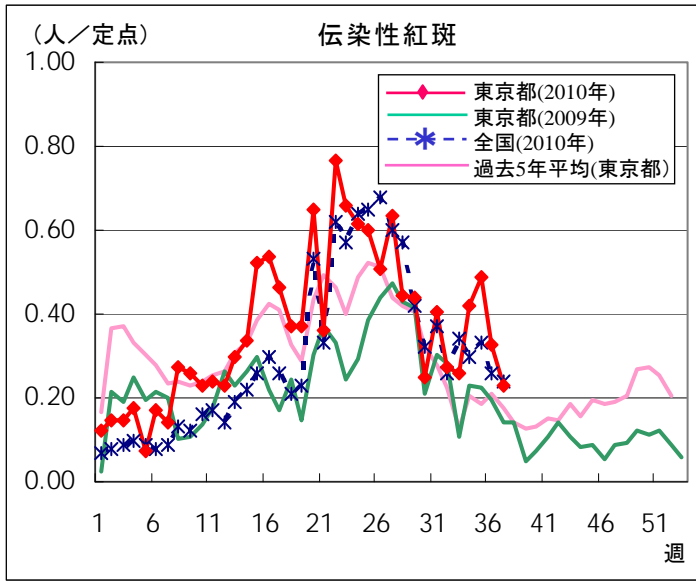
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	0.33		0.67	1.67		1.00		0.67		0.67
中央区			0.33	5.00		0.33				
みなと	0.33	0.83	0.67	6.50		1.67		0.83	0.33	0.33
新宿区			0.33	1.50	0.50	1.67		0.17	0.17	0.33
文京		1.33	0.33	0.33	1.00	0.33	0.67			0.33
台東			1.00	3.67	0.33	0.67		0.33		0.33
墨田区	0.33		2.00	3.67				2.33		0.33
江東区		1.00	0.50	17.00	0.75	2.25	0.50	1.00		0.25
品川区			0.67	4.50		0.17	0.17	0.67		0.33
目黒区				0.67		0.67	1.00	1.00		
大田区		0.67	0.44	5.00	0.44	1.22	0.22	0.78	0.33	0.89
世田谷	0.25		0.38	3.25	0.13	0.75	0.13	0.75		0.13
渋谷区			0.50	2.75		0.25	0.25	0.75		0.25
中野区		0.17	0.83	5.17	0.67	0.33		0.17		0.17
杉並			0.50	6.50	0.17	0.67	0.33	0.50		
池袋				1.50				0.25		
北区		1.00		2.33		1.00		1.00		0.67
荒川区	0.50	1.00	0.50	5.00	1.50	2.50	3.00	1.50		0.50
板橋区		0.33	0.33	3.00	0.17	0.17	0.17	0.83		
練馬区			0.67	2.50	0.50			1.17	0.17	0.17
足立		0.80	1.80	5.20	0.60	0.60	0.60	0.60		0.40
葛飾区		0.25	0.25	4.50	0.50	1.75		1.75		0.75
江戸川	0.40		2.40	3.20	0.20	2.20	0.40	1.00	0.60	2.20
八王子市	0.50		3.00	8.75	1.25	2.00		1.25	0.75	7.00
西多摩		0.20	1.00	2.80		0.40	0.20	0.20	0.20	
南多摩		0.50	0.25	2.25	0.50	1.50	0.75	1.00		1.75
町田			2.75	7.50	0.50	1.50		2.00		0.75
多摩立川				1.33	0.33	0.67		0.17		
多摩府中		0.14	0.14	1.71	0.29	1.71	0.14	0.86		0.57
多摩小平		1.00	0.33	5.83	0.33	2.33	0.33	1.00		0.83
島しょ			2.00		1.00	1.00				1.00
東京都	0.08	0.29	0.72	4.13	0.34	1.01	0.23	0.77	0.10	0.63

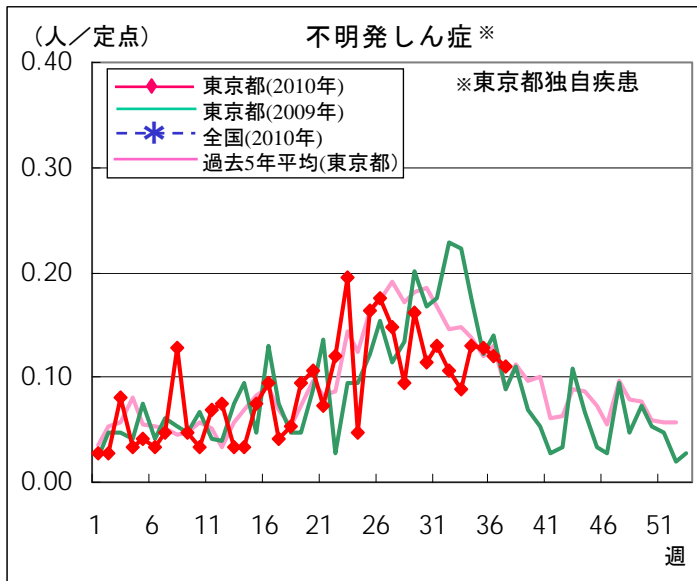
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区				0.25		2.00
みなと	2.33					
新宿区		0.33		0.33		
文京	0.67					
台東	1.00			0.80		
墨田区	0.33					
江東区	0.50			0.33		2.00
品川区	0.50					1.00
目黒区						
大田区	0.22					2.50
世田谷	0.13	0.13		0.31		0.50
渋谷区				0.17		
中野区						1.00
杉並						
池袋	0.25					
北区	0.67					1.00
荒川区	1.50	1.00				4.00
板橋区	0.50					1.50
練馬区	0.83	0.33				
足立		0.20				
葛飾区	1.00			0.22		
江戸川						1.50
八王子市	0.75	0.75				1.50
西多摩	0.40	0.20				
南多摩	0.75			0.11		
町田	1.75	0.50		0.56		
多摩立川	1.00					
多摩府中	0.14	0.29				1.33
多摩小平	1.67			0.21		4.50
島しょ	10.00					
東京都	0.61	0.11	-	0.10	-	1.03

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年37週現在

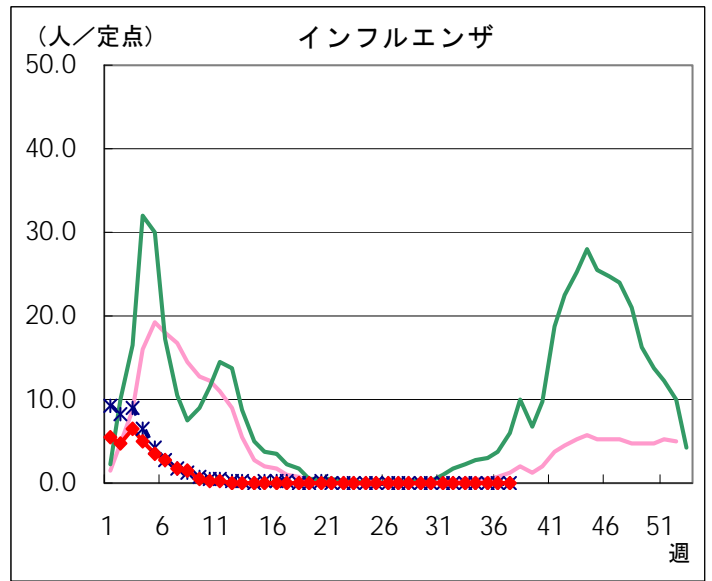
◆ 小児科定点



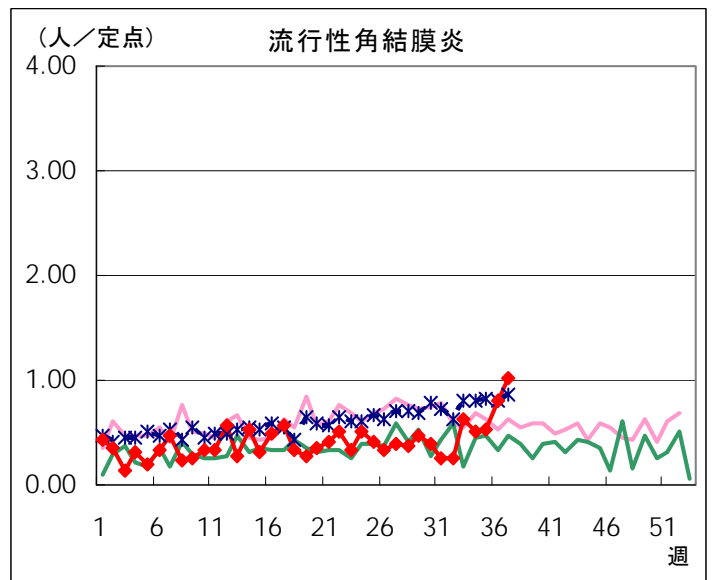
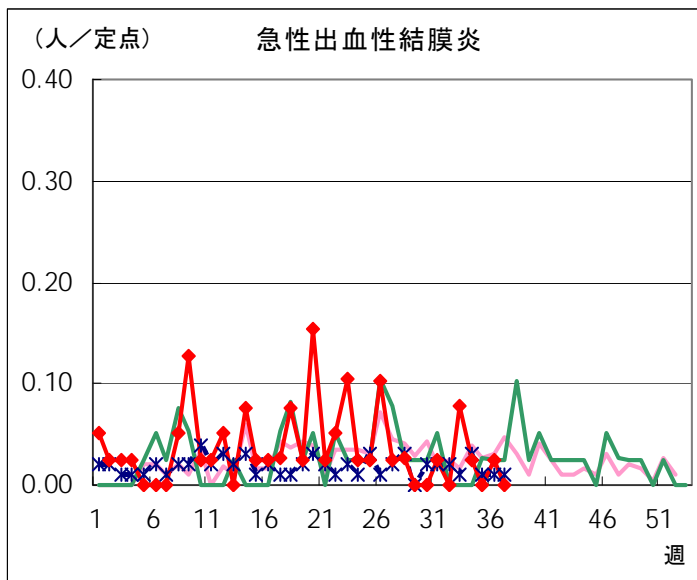




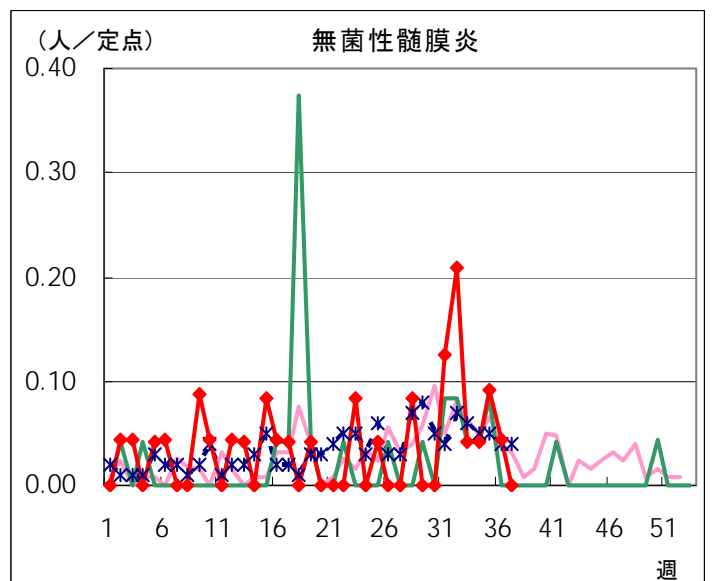
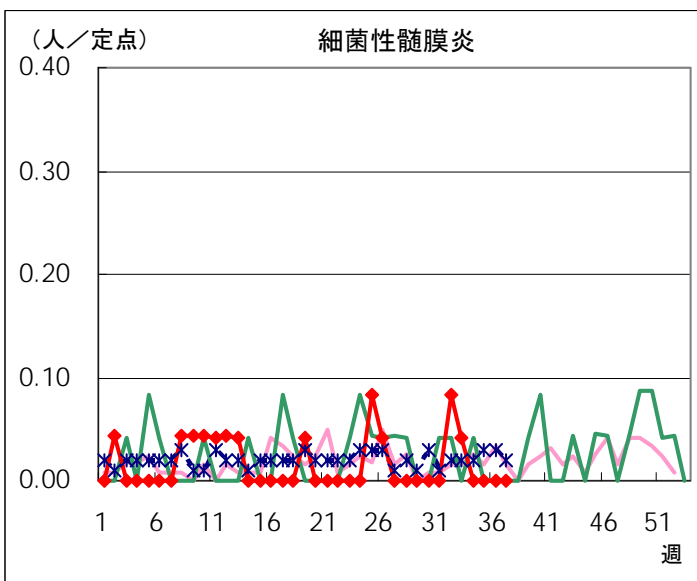
◆ インフルエンザ定点

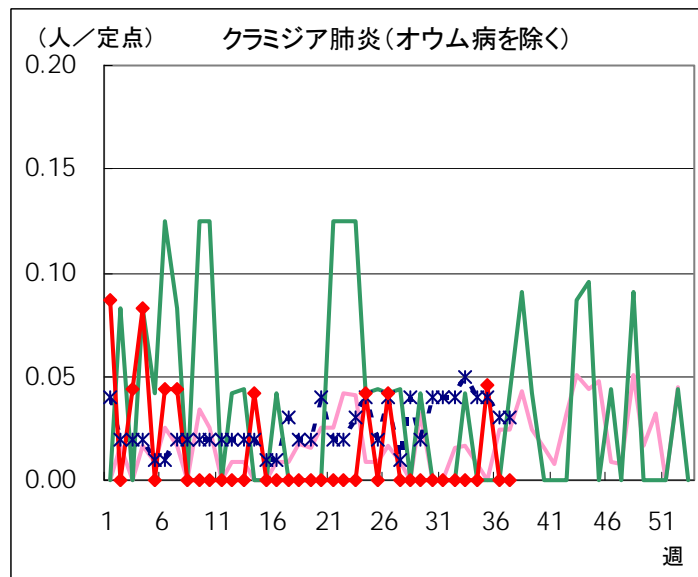
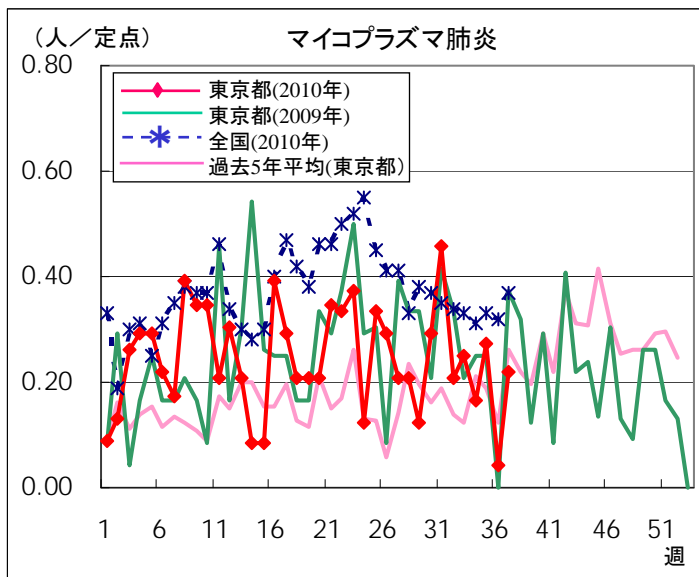


◆ 眼科定点

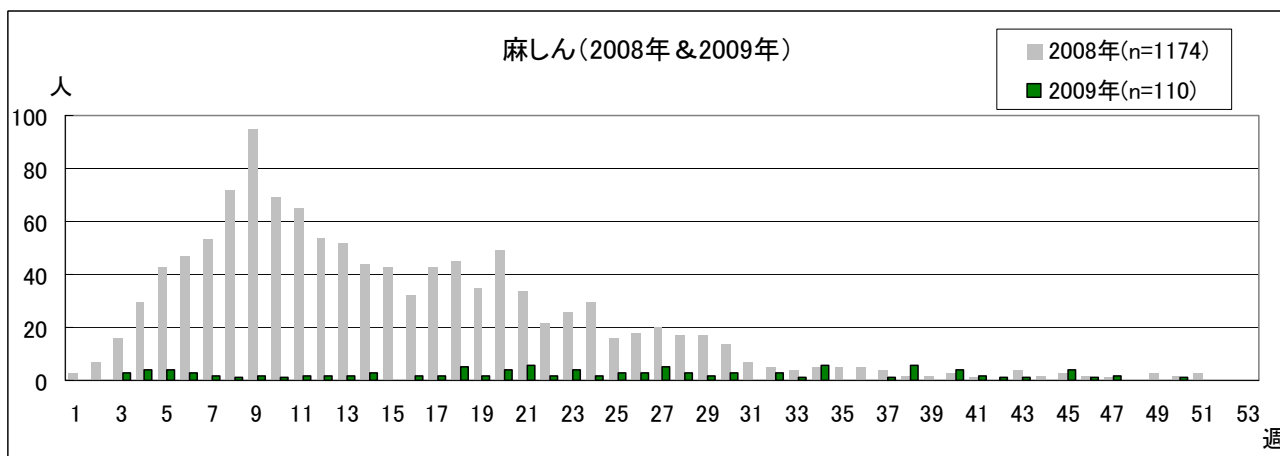
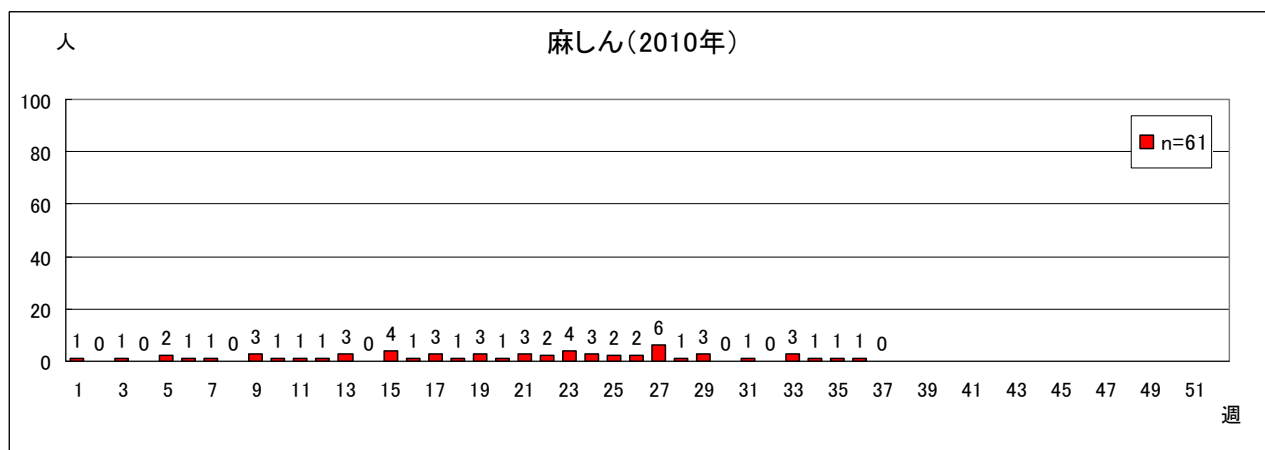


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年37週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
9/4	百日咳	12	後鼻腔拭い液	百日咳菌	遺伝子
9/4	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
9/6	百日咳	5	後鼻腔拭い液	百日咳菌	
9/6	咽頭炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
9/6	気管支炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/6	急性胃腸炎	1	糞便	エンテロウイルス	
9/6	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
9/6	血管性浮腫	2	咽頭拭い液	EBウイルス	
9/7	咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/7	咽頭炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/7	咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/8	咽頭炎	記載なし	咽頭拭い液	アデノウイルス	
9/9	頸部リンパ節炎	11	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルス)

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
36週	0	1	0	0
2010-2011年 シーズン累計**	0	1	0	0

* : 新型インフルエンザウイルス(pandemic H1N1 2009)。

** : 2010-2011シーズンの開始は第36週(2010年9月6日~9月12日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週
ウイルス	アデノウイルス	2	6	3	3	6	2	3	1
	ライノウイルス	3	3	4	2	3	3	2	
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	1							
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71							1	
	その他のエンテロウイルス	16	24	15	9	12	11	8	6
	単純ヘルペスウイルス		2						
	水痘・帯状疱疹ウイルス					1			
	ヘルペスウイルス6/7	10	4	1	8	7	4		1
	EBウイルス	1	2	1	2		2	2	1
	サイトメガロウイルス	1	1	3		1		1	
	ムンプスウイルス		2	1	3	2	4	1	
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	2		1		1			
	RSウイルス						1	3	2
	ノロウイルス							1	
	ロタウイルス			1					
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								1
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm									
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス	2	2	1	1			1		
細菌	カンピロバクター						2	1	
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌			3		3		2	
	その他の細菌	1		5		3	3	3	2
その他の病原体			1			1	4	1	

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年29週～2010年36週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	12	60	48	13	34	7		3	6	17	3	42	11	1			122	
ウイルス	アデノウイルス		9	4		2	2	1		1	1						6	
	ライノウイルス		3	5			1		1	1	1		2				6	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群	1																
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71	1																
	その他のエンテロウイルス	2	24	12	3	4	3		5	11			16	2	1			18
	単純ヘルペスウイルス																	2
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														1			
	ヘルペスウイルス6/7	1	1								7		14		1			11
	EBウイルス		2											2				7
	サイトメガロウイルス		1							1		1	1	1				2
	ムンプスウイルス					5								8				
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											2	1					1
	RSウイルス		2	3														1
	ノロウイルス				1													
	ロタウイルス				1													
	インフルエンザウイルスAH1																	
	インフルエンザウイルスAH3	1																
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm																		
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス		4	2														1	
細菌	カンピロバクター				2												1	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		7	1														
その他の細菌		1	16															
その他の病原体			6														1	

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2010年8月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	114	2.15	53	55
		女	76	1.43		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	59	1.11		
		女	45	0.85		
	尖圭コンジローマ	男	53	1.00		
		女	21	0.40		
	淋菌感染症	男	89	1.68		
		女	10	0.19		
	膺トリコモナス症*	男	0	0.00		
		女	15	0.28		
梅毒様疾患	男	6	0.11			
	女	0	0.00			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	90	3.75	24	25
		女	42	1.75		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	22	0.92		
		女	10	0.42		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	2	0.08		
		女	2	0.08		

2010/9/10

* 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2010年8月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	2			1		
20～24歳	18	3	2	18		
25～29歳	20	10	9	23		1
30～34歳	21	9	8	18		2
35～39歳	18	7	11	15		1
40～44歳	14	7	11	6		1
45～49歳	10	9	5	5		1
50～54歳	6	7	3	1		
55～59歳	1	3	2			
60～64歳	2		1	2		
65～69歳	2	2				
70歳～		2	1			
合計	114	59	53	89		6
先月数	112	61	55	93	1	6
増減数	2	-2	-2	-4	-1	

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳	1					
15～19歳	9		1		1	
20～24歳	19	10	11	7	2	
25～29歳	29	9	3	2	1	
30～34歳	9	5	3	1	3	
35～39歳	5	2	1		3	
40～44歳	3	5			1	
45～49歳		2	2		2	
50～54歳		3				
55～59歳	1	2			1	
60～64歳		2			1	
65～69歳		2				
70歳～		3				
合計	76	45	21	10	15	
先月数	83	43	25	20	11	
増減数	-7	2	-4	-10	4	

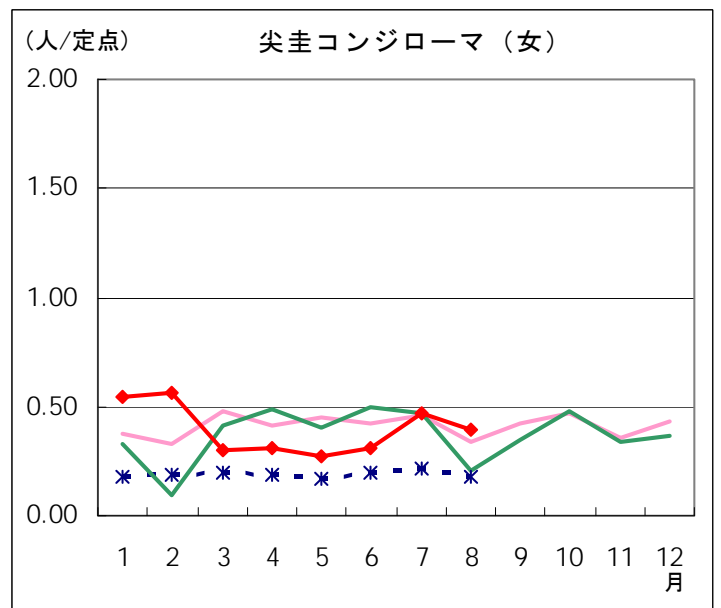
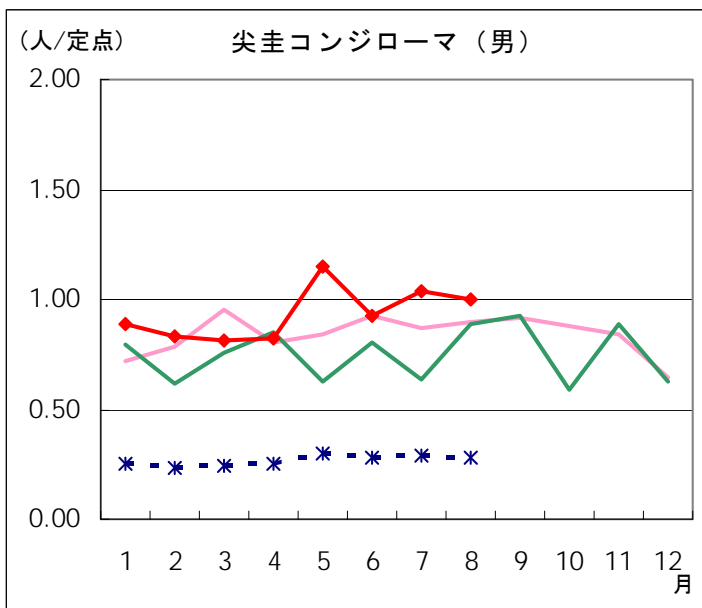
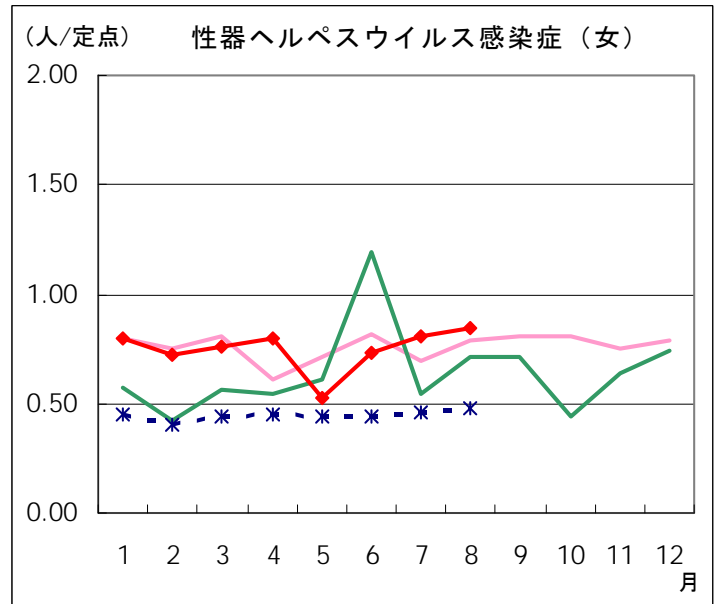
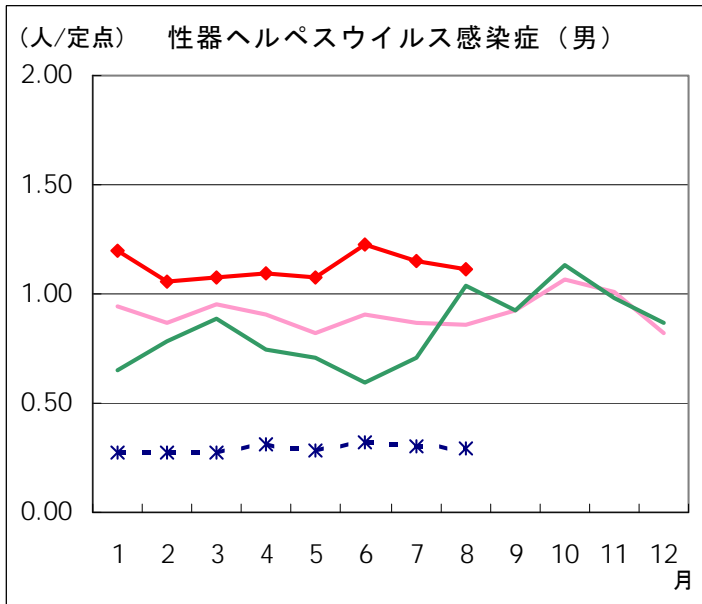
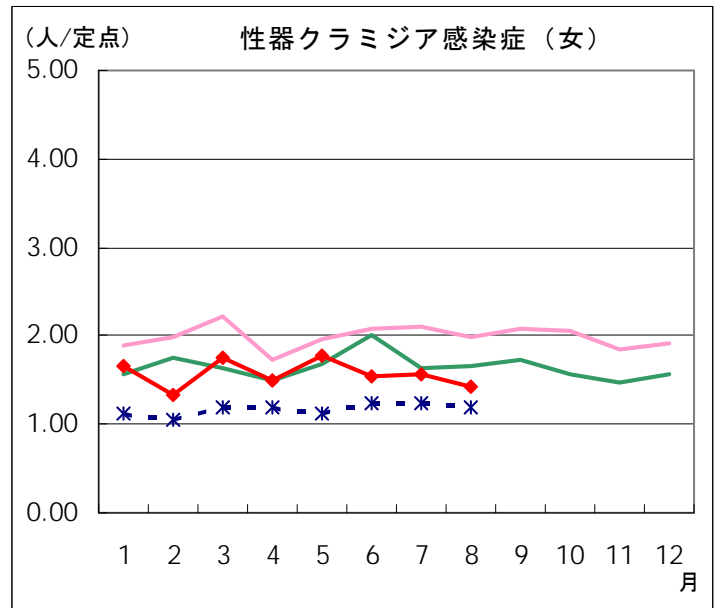
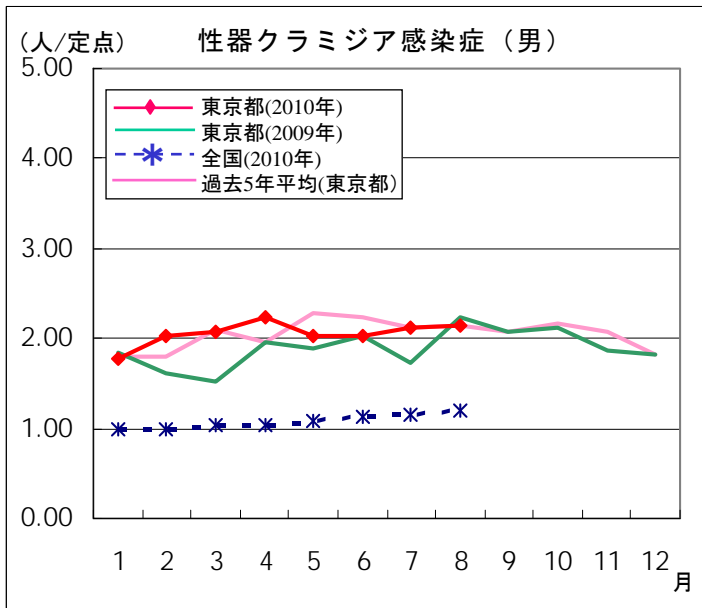
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2010年8月

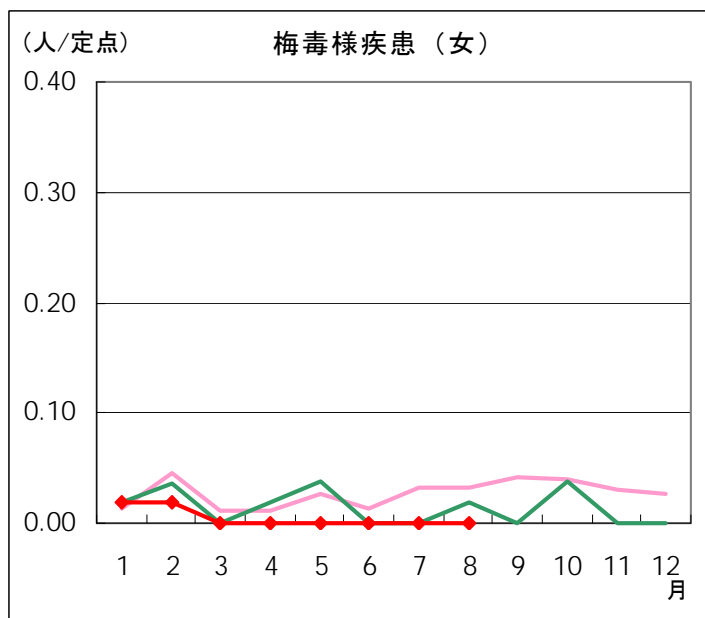
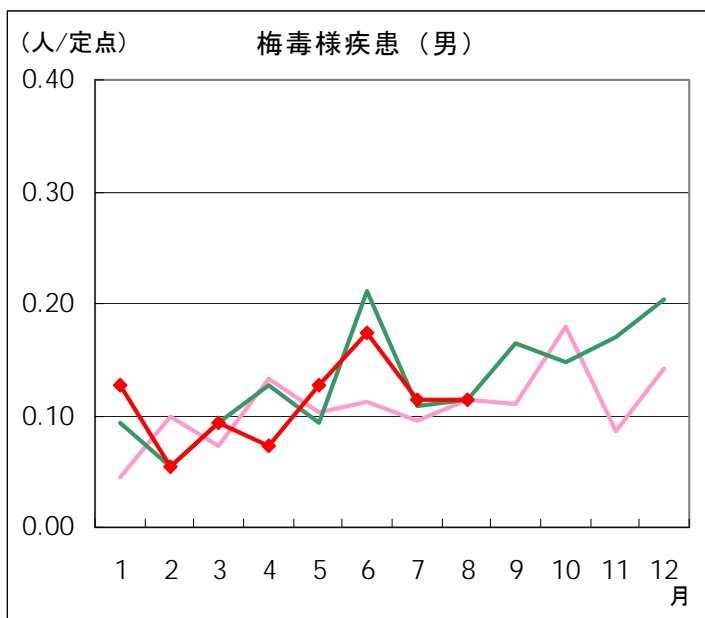
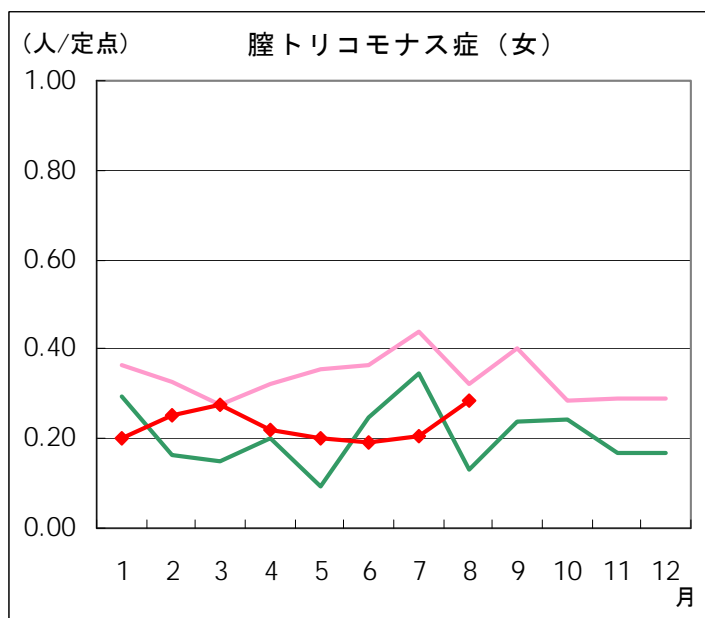
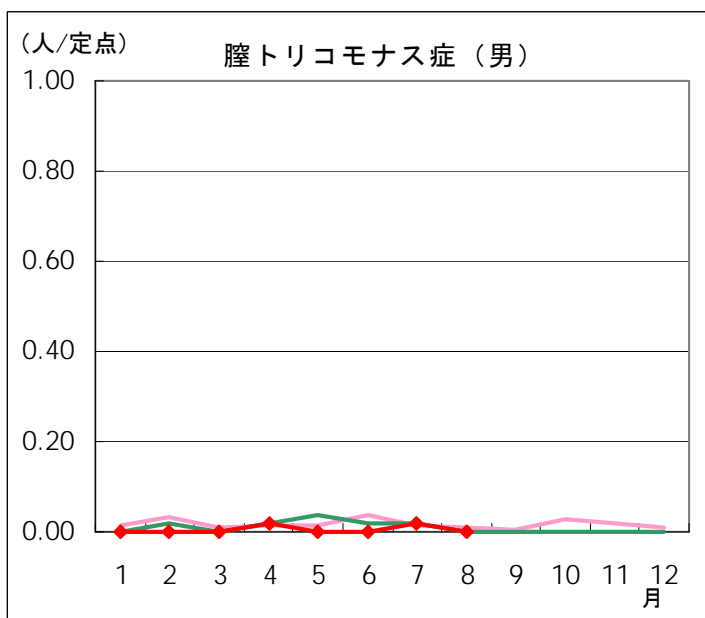
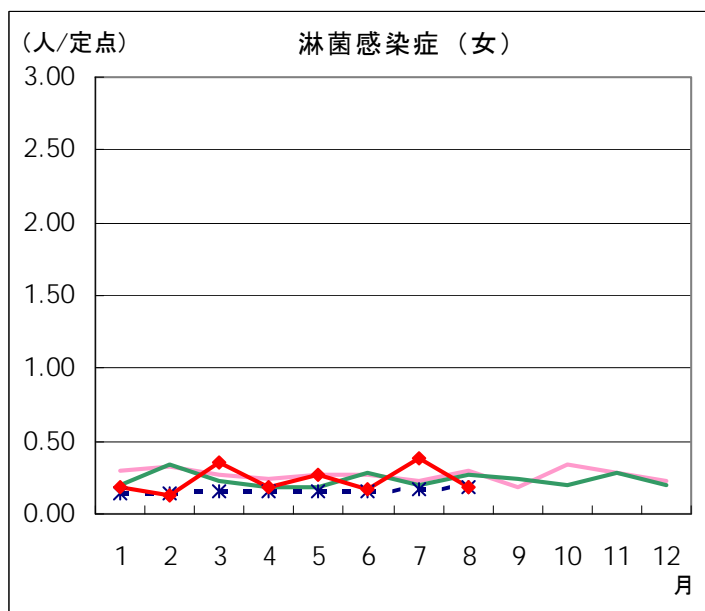
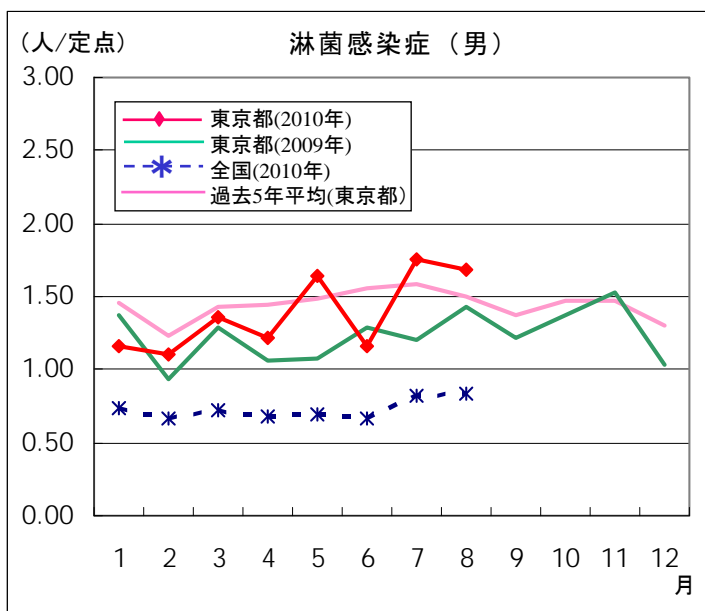
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	5	2	2	9		
中央区	3	9	2	1	1		
みなの	2	13	31	14	1		1
新宿区	7	23	11	19	31		4
文京	1	6	1	3	2		
台東	2						
墨田区	2	2	2	1	3		
江東区	2	9	4	2	13		1
品川区	1	1			1		
大田区	2	1			1		
渋谷区	3	3	3	1			
中野区	2	6			4		
杉並	2	7			2		
池袋	3	16	3	5	9		
北区	1			1			
荒川区	1						
板橋区	2	4			8		
足立	2	2		3			
江戸川	2	4		1	1		
八王子市	4						
町田	1						
多摩立川	2	1					
多摩府中	3	2			3		
多摩小平	1						
合 計	53	114	59	53	89		6
定点当たり		2.15	1.11	1.00	1.68		0.11

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	2	1				
中央区	3	2	1	1	1	1	
みなの	2	4	8	1	1		
新宿区	7	5	9	6	3	1	
文京	1						
台東	2	3	1				
墨田区	2	1				1	
江東区	2	2	2			2	
品川区	1						
大田区	2	2	1				
渋谷区	3	3	4	3			
中野区	2	1		2		2	
杉並	2	1	1				
池袋	3	10	6	6	2	3	
北区	1						
荒川区	1						
板橋区	2		2				
足立	2						
江戸川	2	10	1				
八王子市	4	7	5		1		
町田	1	1				2	
多摩立川	2	21	3	2	2	2	
多摩府中	3						
多摩小平	1	1				1	
合 計	53	76	45	21	10	15	
定点当たり		1.43	0.85	0.40	0.19	0.28	

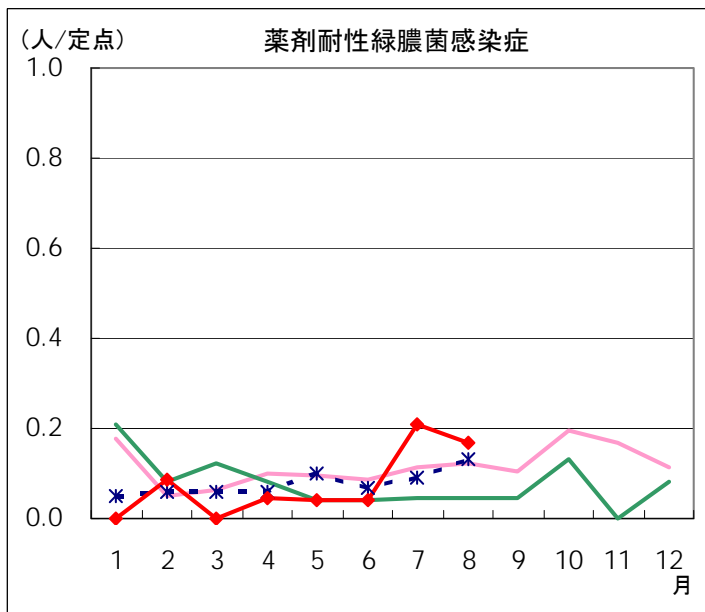
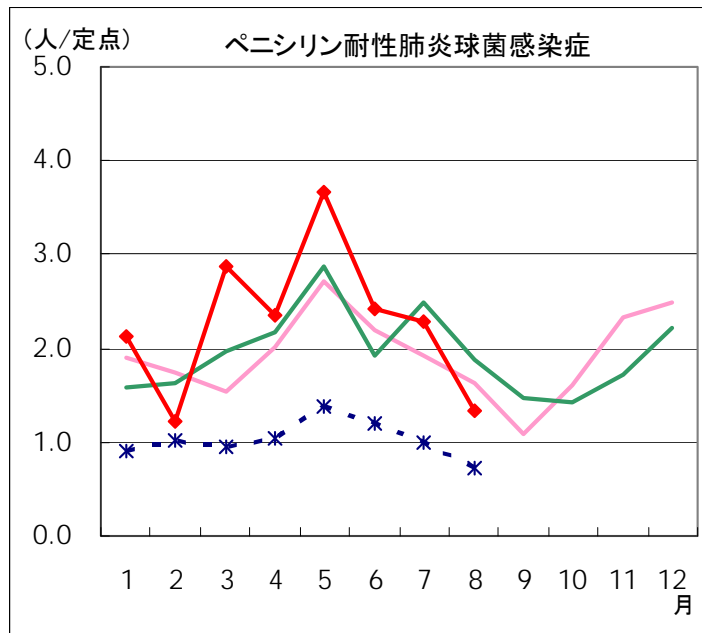
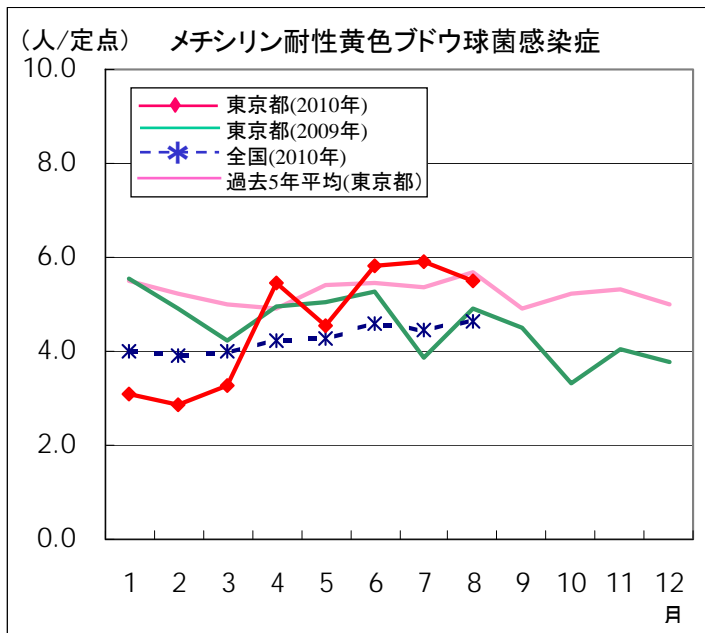
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2010年8月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法	
8/3	淋菌性尿道炎	24	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	淋菌	分離同定 遺伝子	
8/3	淋菌性尿道炎	22	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	淋菌		
8/5	外陰部ヘルペス	22	女	皮膚病巣	ヒト単純ヘルペスウイルス1型	遺伝子	
8/9	尿道炎	62	男	尿	クラミジア		
8/10	尿道炎	25	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	<i>Candida albicans</i>	分離同定	
8/10	尿道炎	26	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	淋菌	遺伝子	
8/10	尿道炎	25	男	尿	淋菌	分離同定 遺伝子	
8/10	尿道炎	39	男	尿	淋菌	遺伝子	
8/11	尿道炎	35	男	尿	クラミジア		
8/19	尿道炎	34	男	尿	淋菌		
8/23	尿道炎	37	男	尿	クラミジア		
8/24	陰茎コンジローマ	58	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	ヒトパピローマウイルス6型		
8/24	外陰部ヘルペス	記載なし	記載なし	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス1型		
8/24	尿道炎	45	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	淋菌		
8/24	淋菌性尿道炎	48	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア		
8/24	尿道炎	32	男	尿	淋菌		分離同定 遺伝子
					クラミジア		遺伝子
8/24	尿道炎	33	男	尿	淋菌	分離同定 遺伝子	
8/26	尿道炎	45	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	淋菌		

<感染症豆知識>

クオンティフェロン

クオンティフェロン（以下 QFT）は、結核菌に感染した人を調べるツベルクリン反応（以下ツ反）に替わる新たな検査法である。QFT 第 2 世代は 2005 年 4 月に体外診断薬として承認され、2006 年 1 月には保険適用となった。保健所の行う接触者健診では既に必須アイテムとして定着している。その割に一般臨床の場で知名度が低いのは、採算性が悪くかつ検体輸送時間に制約があり、大手検査センターが受託を見合わせたためである。しかし 4 月に保険点数が 600 点に引き上げられたこと、8 月から利便性のよい QFT 第 3 世代に切り替わることで、受託検査センターは急増すると思われる。

ツ反の欠点は、PPD に BCG 菌との共通抗原が含まれるため、BCG 接種だけでも陽転化することである。このため接触者健診では便宜上、ツ反が強陽性なら感染者、それより弱い陽性は BCG 陽転としてきたが、合致しないケースが多かった。

QFT 第 2 世代は、BCG 菌にない ESAT-6 と CFP-10 という 2 つの結核菌特異蛋白抗原の発見が契機となって開発された。採血された被験者のリンパ球とマクロファージを培養しながら、2 つ抗原を加えると既感染者のリンパ球ならインターフェロングammaを産生し、未感染者のリンパ球は産生しない。この産生量を測定してカットオフ値 0.35 以上なら陽性、0.1 未満を陰性、その間を偽陽性と判定している。QFT 第 3 世代は、原理・判定基準は同じまま、第 3 の抗原 TB7.7 を加えて検出感度を高めている。

臨床現場での具体的な使用方法は、①菌所見の得にくい軽症肺結核や肺外結核疑い例の補助診断②TNF- α 阻害薬使用前の RA 患者やステロイドを使う膠原病患者の潜在性結核感染チェックである。

（文責 結核予防会複十字病院副院長 尾形英雄）